

二〇一〇年四月二八日（京都植物園参加者一名）

木香薔薇四方へ香りの蔓ひろげ	菜々
園こころ喬木の森や著莪の花	"
野遊びの園児ら声を撒き散らす	"
園広し百樹百花に春惜しむ	"
園若葉髪なびかせて乙女像	"
夏めくやはるか比叡は藍色に	"
あめんぼう己の影とあそびけり	宏 虎
一水に黄を散らしけり濃山吹	"
菜の花黄賀茂の河原を埋めけり	"
車椅子押して母との春惜しむ	百 姓
下萌に斑の洩れ日揺らぎをり	"
春落葉踏みならしつつ苑巡る	かれん
写生児の画布をはみ出す青葉かな	"
加茂川の中州を渡る花菜風	有 香
温室の狭しと占むる奇樹珍樹	"
佇めば頬触る風や園うらら	明日香
逍遙の半木の道余花にあふ	きづな
茎立ちの菜花中州に揺れやまず	小 袖

雨晴れて光をはじく犬ふぐり	満 天
堰落つる水に遊べる春の蝶	はく子
鴨川の水きらめきて花は葉に	"
ゆずりはは花を要に古葉新葉	"

吟行句会みの選

二〇一〇年四月二八日（京都植物園参加者一名）